

苗場山麓ジオパーク

雪のふる里

—奥信越の川と火山がつくりだした大地・雪に育まれた自然と歴史文化—

日本有数の多雪地帯として知られる津南町と栄村は、苗場山の北西麓に位置し、1年のうち5ヶ月近くが雪に覆われます。私たちの祖先は、その脅威に耐え、時には利用しながら、雪とともに暮らしてきました。中津川上流には、「秋山郷」と呼ばれる、どこか懐かしい山村風景や大地の景観が今もなお残っています。そこには、江戸時代の文人鈴木牧之が『秋山記行』に描いた時と変わらぬ暮らしが現在も続いています。

なぜ、私たちはここに住みつづけるのでしょうか？

先人たちは知っていました。

降り積もった雪は水となり森に蓄えられ、そして大地を潤し、やがて豊富な湧水となることを。

湧水が生態系を育み、私たち人間は、その恵みを受けて生きられることを。

中津川下流では、階段のような美しい段丘を一望することができます。さらに、その段丘の上に覆いかぶさる苗場山の溶岩をはっきりと見るすることができます。火山の噴火のすごさや川のはたらきを目の前にして、大地（地球）は生きていることを学びましょう。そして、この地で1万年間森と生きた縄文の民に習い、自然と共生することを再確認しましょう。

私たち人間はこれから、大地や自然とどのように付き合い接していくべきでしょうか。

それを五感を通して体感しながら学ぶ場所、それが

苗場山麓ジオパークです。

苗場山麓
ジオパーク

ジオパークとは？

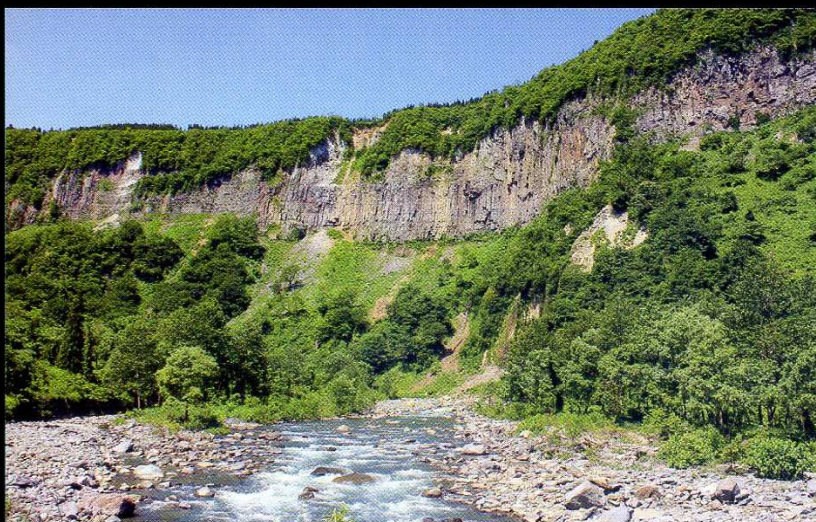
直訳すると「大地の公園」。
地球の成り立ちを観察できる地形や地質、そこに育まれた生態系と私たち祖先の歴史文化を守りながら体感して楽しく学ぶ場所です。

地球から学び、未来へつなぐ



河岸段丘 (地図①)

大地の隆起(もり上がる)ことと河川のはたらきによって形成され、たくさんの段丘が狭い範囲で一望できます。また、日本の古い時代の扇状地が段丘面として見ることもできるのも特徴です。



石落し (地図⑭)

見る者を圧倒するこの断崖は、苗場山の溶岩です。この雄大な柱状節理(※1)は、中津川の浸食(削りとること)によってその姿を現しました。

龍ヶ窪 (日本名水百選) (地図④)

苗場溶岩の末端には、湧水が点在しています。そのひとつが龍ヶ窪です。周囲を鬱蒼とした森に覆われ神秘的な佇まいのこの池には、数々の龍神伝説が残っています。



穴藤の川原・古型マンモスの臼歯化石出土地 (地図⑯)

穴藤の川原では、古型マンモスの臼歯化石が発見されています。その下層には、年代を知ることができる上越火山灰 (SK030) を見るすることができます。

逆巻の川原と猿飛橋 (地図⑰)

千体仏像と形容される柱状節理は、日本海ができ始めた頃の海底火山の噴出物です。この少し上流に猿飛橋が架かり、江戸時代の文人鈴木牧之が描いています。



※1 柱状節理とは、溶岩などが堆積するとき、冷えて縮むときにできる割れ目で、断面は六角形が多い。側面は柱状や板状になる。



- ① 河岸段丘 (マウンテンパーク津南からの眺望)
- ② 上野の大杉
- ③ 今井城跡 (新潟県指定史跡)
- ④ 龍ヶ窪 (日本名水百選)
- ⑤ 沖ノ原遺跡 (国指定史跡)
- ⑥ 外丸矢放神社の八本杉
- ⑦ 正面ヶ原D遺跡 (新潟県最古)
- ⑧ 船山神社の大樫
- ⑨ 堂平遺跡
- ⑩ 美穂 ローム層の露頭
- ⑪ セツ釜 (国指定天然記念物)
- ⑫ 野々海池のミズバショウ群落
- ⑬ 山伏山と風穴
- ⑭ 石落し
- ⑮ 見玉不動尊と仁王門
- ⑯ 穴藤の川原・古型マンモスの臼歯化石出土地
- ⑰ 逆巻の川原と猿飛橋
- ⑱ 清水川原の屏風岩 (大島)
- ⑲ 結束の石垣田
- ⑳ 結束のシシ穴
- ㉑ 見倉橋 (地質景観)
- ㉒ 見倉の風穴・トチノキ原生林
- ㉓ 前倉橋 (地質景観)
- ㉔ 蛇淵の滝
- ㉕ 矢櫃村跡
- ㉖ 甘酒村跡
- ㉗ 草津街道
- ㉘ 苗場神社
- ㉙ 黒駒太子堂
- ㊱ 小赤沢のユモトマユミ
- ㊲ 大瀬の滝
- ㊳ 苗場山と伊米神社 (日本百名山・花の百名山)
- ㊴ 小松原湿原
- ㊵ 中津川上流域の温泉群
- ㊶ 布岩山
- ㊷ 上ノ原の風穴
- ㊸ 天池
- ㊹ 上ノ原 (溶結凝灰岩)
- ㊺ 和山の崖 (凝灰岩)
- ㊻ 鳥甲山
- ㊼ 鳥甲牧場 (湖跡)
- ㊽ 勘五郎の滝
- ㊾ 切明の川原 (温泉湧出)
- ㊿ 切明西方の滝
- 1 夫婦滝
- 2 雑魚川の大滝
- 3 鬼沢火砕流跡
- 4 魚野川左岸の遊歩道 (東電トロツコ跡)
- 5 魚野川 (地質景観)
- 6 長瀬新田遺跡
- 7 天代の露頭
- 8 石器として利用された岩の露頭
- 9 阿部家 (長野県宝)
- 10 小滝四ツ廻りの運河跡
- 11 常慶院
- 12 中条川崩落地形 (長野県北部地震)
- 13 森宮野原駅 最高積雪 7.85mの標柱

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。(承認番号 平25情使、第72-GISMAP32361号)

地球規模の気候変動を背景に、水の量と土砂の量の変化による河川のはたらきと大地の隆起によって河岸段丘がつくられました。苗場山麓では、40数万年前からつくられた階段のような段丘を一望することができます。水(川)のはたらきのすごさを実感しながら、その成り立ちを学ぶことができます。

そしてその段丘の上に覆いかぶさる苗場溶岩の流れと川が削った岩壁を見て、その先端部には湧水が点在することを知ります。

「石落し」では、中津川の浸食によって姿を現した堂々たる苗場溶岩の柱状節理を、布岩山では、天にそびえ立つ鳥甲溶岩の柱状節理を目の当りにします。

人間は、およそ3万年前の旧石器時代にこの地を踏みしめました。そして約8,000年前に日本海へ対馬暖流が流れこんだことによる多雪という環境の変化にも適応し、雪国文化を育んできました。

大地の形成と人間の活動が密接な地域

それが 苗場山麓ジオパークです。



清水川原の屏風岩(大瀧) (地図⑮)

3段の紅葉に挟まれた表情の違う溶岩が堆積しています。溶岩には植物が生育せず溶岩上に堆積した土に木々が根付きました。



苗場山と伊米神社(日本百名山・花の百名山) (地図⑳)

苗場山は標高2,145m、約30万年前に形成されました。山頂は平坦で約700haの湿原が広がり、約6,000ヶ所の池塘(※2)が点在しています。湿原の形成には、多雪が関わっていると言われます。池塘は田んぼのように見えることから「天の苗代」とも呼ばれ、豊稔を願ひ参拝登山されてきた歴史があります。夏には、ワタスゲなどの高山植物で飾られます。



鳥甲山 (地図㉑)

苗場山の形成よりも古い鳥甲山は、3回の火山活動期が知られています。白倉山・剃刀岩・鳥甲山・赤倉山・布岩山の連山を含んで鳥甲火山と総称します。



柱状節理の断面

布岩山 (地図㉒)

屋敷集落の北側にそびえる山は、布を幾重にも垂らしたように見えることから布岩山とよばれます。この柱状節理は、鳥甲山の火山活動によるもので、節理の幅は1.5m以上もある見事なものです。



石器として利用された岩の露頭 (地図㉓)

この黒く光る石は、旧石器時代から利用された無斑晶ガラス質安山岩です。現在も爪石として珍重されています。



雑魚川の大滝 (地図㉔)

「おおぜん」とよばれ雑魚川上流に位置します。高さ約20m、この地域で一番古い地層(結束層)の中の変質した安山岩を流れくだる滝です。



中条川崩落地形(長野県北部地震) (地図㉕)

日本海にたまった泥層・砂層・火山灰層などの地層が見られ、地滑りの多い地形となっています。この中条川付近は、2011年の長野県北部地震の際にも崩落しました。

※2 池塘とは、高層湿原が形成される過程で、堆積した泥炭層の隙間が雨や雪で自然に満たされた小さな池のように見える箇所。



雪の恩恵

厳しい冬、たくさんの雪はやがて豊かな湧水に

雪の鳥甲山



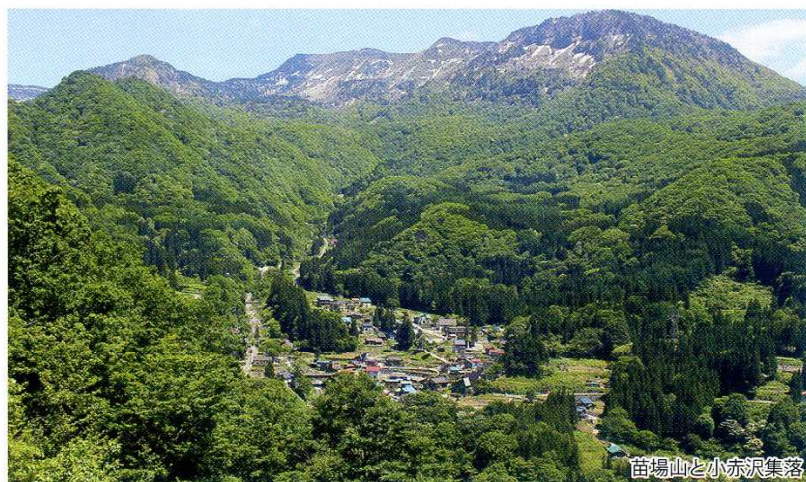
積雪 7.85m の標柱

ユーラシア大陸からの季節風は、日本海を渡る際に対馬暖流上で水蒸気を蓄え、三国山脈にぶつかりたくさんの雪を降らせます。この地域は、毎年平均 3m の積雪がある多雪地域であり、雪が現在の自然環境をつくりだしています。年間降水量の半分以上が雪によるもので、雪は私たちの生活にとって大切な水資源です。

私たちの祖先は、雪を克服し利用し、雪とともに生きてきました。そこには雪国独特の文化が生まれました。この地で生きるための文化を子どもたちと体験しながら学び、未来へとつなげていきます。



スカリ（雪上歩行具）をつけて歩く図
『北越雪譜』鈴木牧之著より
所蔵：鈴木牧之記念館



苗場山と小赤沢集落



牧之も描いた見倉集落



秋の見倉橋

山に抱かれる秋山郷

今も生きづく、日本の原風景

中津川の上流域には「秋山郷」とよばれる山村地域があります。苗場山や鳥甲山の麓に村々が点在しています。^{すずき ぼくし}

江戸時代の文人鈴木牧之はこの秋山郷を訪れ、風景や人々の暮らしを『秋山記行』に描きました。色彩豊かな絵図を片手に、牧之の足跡をたどる旅に出かけませんか。

深い渓谷でありながら村々が営まれているのは、崩落や川のはたらきなどで平らになった場所が利用されているためです。その歴史は約 8,000 年前の縄文時代に遡り、現代まで脈々と生活が続けられてきました。

自然との密接な関わり合いが今も生きづいています。

縄文

JOMON

世界4大文明よりも古い頃、苗場山麓には落葉広葉樹が繁茂し、雪国縄文文化が営まれました。津南町・栄村には拠点となるムラがあり、1万年もの間森と共生した歴史をもちます。そうした中で彼らは、“火焰型土器”をつくりだしました。火焰型土器は現在もなお、私たちに驚きと感動を与えてくれます。



飲食

EATING
AND DRINKING

苗場溶岩流の末端から湧き出る豊富な水。その水の恵みによって美味しいお米やお酒がつくられています。また、古くから伝わる雑穀栽培や森で採れる木の実やキノコ、山菜も貴重な食材です。そして山鳥や熊、鮭や鱒なども貴重な動物性タンパク源です。これらの食材からこの地ならではの食文化が育まれました。



温泉

ONSEN

苗場山麓には、中津川流域・志久見川流域と信濃川流域に分かれて温泉が点在しています。この温泉も大地の活動による恩恵のひとつです。これらの温泉は、大きく分けて食塩泉と硫黄泉に分かれます。効能と景色の異なる温泉をめざして、スパ・トレッキングを楽しんではいかがでしょうか？



ガイドと一緒に苗場山麓を楽しもう！

苗場山麓ジオパークでは、ガイド養成講座、ガイド認定試験を経た地元ガイドが皆様をお待ちしております。苗場山麓の雄大な大地の履歴や美しい風景、その背景には、成り立ちやそこに息づく動植物、そしてここに暮らしてつづけてきた人の歴史文化があります。そのすばらしさを地元の言葉で伝えたい。さらなる知識や感動を持ち帰っていただきたい。そんなふうに願っています。ぜひガイドと一緒に苗場山麓を巡ってみませんか。

- ガイドの依頼は2週間前の予約を原則とします。
- 料金その他、詳細につきましては、下記津南町観光協会まで。

■ガイドの依頼・お問合せ
津南町観光協会
☎025-765-5585



■苗場山麓ジオパーク拠点施設

津南町農と縄文の体験実習館（愛称：なじょもん）

〒949-8201 新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡乙835番地
TEL/FAX 025-765-5511 URL <http://www.najomon.com>

ニュー・グリーンピア津南

〒949-8313 新潟県中魚沼郡津南町秋成12300
TEL 025-765-4611 FAX 025-765-4620 URL <http://www.new-greenpia.com>

道の駅 信越さかえ

〒389-2702 長野県下水内郡栄村大字北信3/46-1
TEL 0269-87-3180 FAX 0269-87-3181 URL <http://www.vill.sakae.nagano.jp/bussan/matatabi/>

秋山郷総合センターとねんぼ

〒949-8321 長野県下水内郡栄村大字堺18281
TEL 025-767-2202 FAX 025-767-2276

■観光・宿泊案内

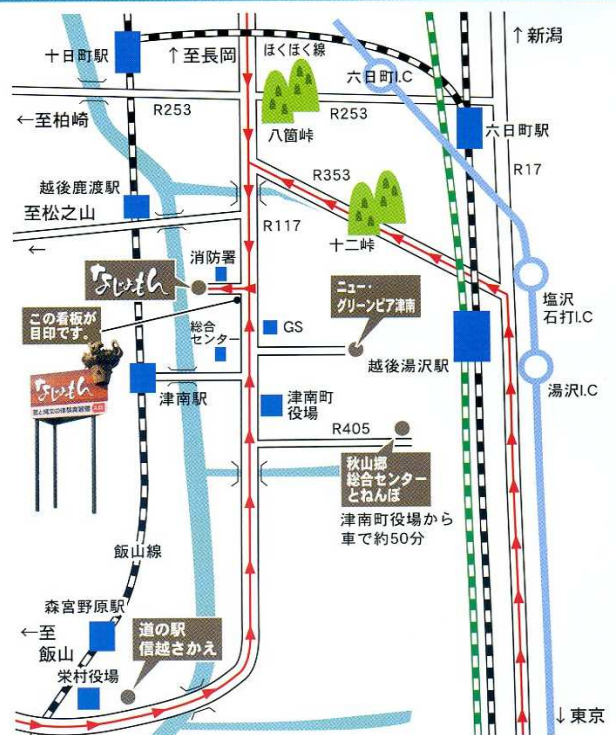
津南町観光協会 TEL 025-765-5585 URL <http://tsunan.info/>
栄村秋山郷観光協会 TEL 0269-87-3333 URL <http://sakae-akiyama.go.jp>

■お問合せ

苗場山麓ジオパーク推進室

〒949-8201 新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡乙835
TEL 025-765-1600 FAX 025-765-5511 URL <http://naeba-geo.jp>

苗場山麓ジオパークへのアクセス



■お車の場合

東京方面	関越自動車道	塩沢石打IC	R353・R117経由	35分	津南町	R117	栄村	10分
新潟方面	関越自動車道	越後川口IC	R117経由	60分	津南町	R117	栄村	10分
名古屋方面	中央自動車道	四谷JCT	長野自動車道	更埴JCT	上信越自動車道	豊田飯山IC	R117経由	50分
金沢方面	北陸自動車道	上越JCT	上信越自動車道					

■JRをご利用の場合

東京方面	上越新幹線	越後湯沢	南越後観光バス	50分	津南	南越後観光バス	15分	森宮野原(栄村)
新潟方面	上越新幹線	長岡	JR上越線		越後川口	JR飯山線		森宮野原(栄村)
名古屋方面	JR中央本線	長野	JR飯山線		森宮野原(栄村)	JR飯山線		津南
金沢方面	北陸新幹線	飯山	JR飯山線		森宮野原(栄村)	JR飯山線		津南